

[128 頁の追加]

「ヨハネの手紙」の解説

(「解説『ヨハネ福音書・ヨハネの手紙』レイモンド・ブラウン著)

ヨハネ福音書とヨハネの手紙の関係

- ㊦ 第一の手紙は、人となったみことばではなく、イエスの生涯のあかしを強調している。
- ㊧ 福音書でイエスに特徴づけられていることが、第一の手紙では神に特徴づけられている、例えば 1.5 では、神が光である (ヨハネ 8.12 参照)。
- ㊨ 手紙では、再臨 (parousia) が、キリスト者としての生活に責任を求める時として強調されている (手紙一 2.28-3.3 参照)。

ヨハネの手紙の著作理由

ヨハネ福音書で主な敵対者であった「ユダ人たちは」は、手紙では登場せず、共同体から離れていった偽り者 (手紙一 2.19 参照) にすべて注目が集中している。それは、彼らに同胞に対する愛が欠如していたことを表す。

第一の手紙は、福音書の主要なテーマを解釈した勸告と言えよう。

第一部 神の光の中を歩む

ヨハネ一 1.5-3.10

光の中を歩む 1.5-7

罪に敵対する 1.8-2.2

掟を守る 2.3-11

世への敵対 2.12-17

反キリスト 2.18-27

罪を避ける 3.4-10

第二部 愛でる神の子として歩みなさい

ヨハネー 3.11-5.12

掟を守る 3.11-24

霊の識別 4.1-6

愛 4.7-5.4

信仰のあかし 5.6-12

結び ヨハネー 5.13-21

[追加テーマ]

共同体に支えられて信仰を生きる

1. 教会は、ぶどうの木であるイエスにわたしたち枝がつながる一致と交わりの共同体である（ヨハネ 15.1-11 参照）。
2. この共同体は、出かけて言って豊かな実を結ぶ（同上 15.12-17 参照）。
3. 教会はキリストの体であり、多様性の一致を生きる共同体である（コリントー 12.12-31 参照）。
4. 教会は奉仕の共同体であり、キリストに向かって愛において成長する（エフェソ 4.1-16 参照）。
5. 教会は全世界に派遣されている宣教共同体である（マルコ 16.14-20; マタイ 28.16-20 参照）。
6. 教会は聖霊を注がれ地の果てまでキリストの証人となる（ヨハネ 20.19-23; 使徒言行録 1.8, 2.1-13 参照）。